

国内初、エレベーター付きバス

東京空港交通 車いす対応車両導入



⑤車いす利用者は側面からスロープ板で車内のエレベーターに乗り、前向きに転回してから客席まで上がる⑥車いすに乗って乗降体験する藤田国交審議員



お披露目式で「画期的なバリアフリー車両」とアピールする増井社長（14日、中央区）

羽田、成田両空港発着の高速リムジンバスを運行する東京空港交通（中央区、増井健人社長）は、国内初

となる車いす用エレベーターを備えたバス車両を導入し、14日、箱崎の東京シティアターミナル（TICAT）で披露した。来月から走らせる。世界でも例がないという。乗降実演・試乗会には、補助金と税制で支援した国土交通省から藤田耕三・国土交通審議員が駆けつけ、バリアフリー化の進展に期待した。

エレベーター付きバスは三菱ふそう製の大型車（型式2TG-MS06GP改）がベースで、左側・中央部にエレベーターが設置された。車いす利用者は側面からスロープ板を使って車内に入り、90度転回して前向きになる。ボタン操作でエレベーターがゆっくり

と上昇し、50秒かけて約1
層上の客席専用スペースま
で行ける。

所要時間は5分

リフト付き車両に比べ、
乗降時は雨風の影響を最小
限に抑えられ、所要時間は
約5分に短縮できた。試乗
した障害者団体のNPO
「DPI日本会議」の車い
す利用者は「エレベーター
は揺れることもなく安定し
ている」と語り、快適な様
子だった。

乗車定員は通常座席39
人、補助席3人、車いす1
人。車いすスペースは、通
常の座席を4席格納して確
保する。エレベーターの積
載重量は230^{kg}まで。

お披露目式で増井社長は
「車いす利用者が安心して
乗れる画期的な車両。当社
でバリアフリー対応車はリ
フト付きの4台と合わせて
5台目になる。来春に10台、
2020年の東京五輪開催
年には20台以上導入し、主

要路線で走らせる」と意気
込みを語った。

来賓の藤田国交審議官は
「改正バリアフリー法で数
値目標を立てて公共交通機
関のバリアフリー化を図ってい
る中、快適・利便・安心な

エレベーター付き車両は、
数字には表れない質の高い
取り組みだ」と評価した。

奈良裕信・総合政策局安
心生活政策課長、日本バス
協会の梶原景博理事長らも
出席した。